

他のまちに誇れる「留萌の魅力」がある。
今まで気付かなかった魅力を発見するために、
人と人が出会える体制づくりをしていきたい。



かい もり まさ ゆき
貝森 将之さん

貝森工業株式会社勤務／東光小学校PTA
副会長／るもい演劇文化振興会議

▼留萌は「何も無い」「魅力がない」と簡単に言う人がいますが、思い浮かべて考えると小さな事でも沢山すばらしい所が出てくると思います。

▼他のまちの廃棄物処理業者が「留萌は面倒だ、厳しい」と言っているのを耳にします。それは、環境に配慮したすばらしい処理をしているからこそ、と考えるとよいと思います。

▼わたしは留萌生まれの留萌育ちですが、一時留萌を離れたことがあり、そのとき故郷を客観的に見ることができました。転勤族も複数のまちに住むことで、それらのまちを比較し、客観的に見ることができると思います。

彼らが語る「留萌の魅力」は、他のまちにも誇れる「留萌の魅力」と言えるのではないのでしょうか。

留萌は、転勤族が多いまちなので、生粋の留萌人たちは文化やスポーツ、イベントなど、仕事を離れた場面でふれあう機会、行動を共にする機会を積極的に作り、今まで気付かなかった留萌の魅力を発見すべきだと思えます。

▼一人ひとりの出会いは小さな輪をつくります。自分の得意分野で活動すること、その輪はさらに大きくなり、やがては地域振興に繋がるでしょう。そのために、人と人が出会える体制づくりをしていきたいと思っています。

留萌の風土やパワーを舞台芸術に向けたい。
まち全体が明るく楽しくなるように、
市民参加型のミュージカルを仕掛けたい。



くらね ともみ
倉根 倫美さん

NPO留萌市文化会議/
留萌ベンチャークラブ

▼留萌には主人の仕事の関係で、今年から住んでいます。夏の吞涛祭の若いひとたちのパワーはすごいですね。都会で目的もなくグズグズしている若者よりずっといい。

飲み屋が多くて、花街のなごりがあるのもニシン漁で賑わっていた名残なのかな。

こういう留萌の風土や市民のパワーを舞台芸術に向けたいですね。

▼欧州では、夏は外でパカンス、冬は劇場の本番というサイクル。それは北海道にも当てはまる。

留萌に来る前は、劇団四季で営業の仕事をして6年ほどして全国の公演に携わっていました。留萌で

も年に何回かステージを見られるようにしたい。誘いかけると「何を着て行ったらいいの？」と構える人が多いけど「普段着でもつと気楽に劇場に行こうよ！」って。

▼北海道の人は、歌も踊りも好きで、バレエも盛んです。劇団四季でも北海道出身者は多い。留萌は、吹奏楽もダンスも演劇も愛好者がいるから、市民手作りのミュージカルができると思う。

過疎が進んで、景気も沈んで、まち全体が暗くなつていくと寂しいから、なんとか明るく楽しくなれるように、市民参加型のミュージカルを仕掛けたいですね。

今の留萌に満足しています。
海に行ったり、夕陽を見るのも好き。
ふるさととして、ずっとこのままであってほしい。



はしば み の
橋場 美野さん

留萌高等学校2年生/
H14年度高校生交換留学生

▼今年、交換留学でカナダのコートニーで3か月生活しました。

コートニーは田舎まちで、その分、時間がゆっくり動いて、ゆつたりの人びりしてました。学校の生活も規則が緩やかで自由でよかったですね。

日本は、逆にせかせかしている感じがします。

留学して、英語はだいぶ身につきました。それ以上に、言葉が通じなくても、伝えようとする意思があればコミュニケーションがとれる自信ができました。

▼今の留萌には満足しています。将来は、進学で留萌を離れることになると思いますが、留萌は、ふる

さととして、ずっとこのままであって欲しいと思います。

スキーやスケートが好きなので冬も好きだし、海に行ったり、夕陽を見るのも好き。通学するとき、自転車留萌川の河川敷を走るのもいいですね。

▼願いとしては、お年寄りが暮らしやすくなること、若い人の楽しみが増えること。道路が歩きやすくなったり、街路灯を整備して夜でも明るく歩けたり、留萌にいても映画が見られたりできればと思います。

具体的な方法は分かりませんが、映画館ならボランティアでお手伝いもできるかな。

心を開いて、理解してくれる人の輪を広げたい。
そのために、地域やボランティアに対して
できるかぎり情報発信していきたい。



かめ たに まさ のぶ
亀谷 正信さん

障害者地域共同作業所
留萌ふれあいの家所長

▼「障害者が、一人の人間として平等に付き合ってもらえるまちになって欲しい」というのが願いです。

親としては、日常の中で、心を開いて話をし、理解してくれる人の輪を広げたい。それが、障害者本人の幸せにつながっていくと思います。

障害者本人には、いきどろかないところがありますから、どうしても地域やボランティアの人たちの協力が重要です。

▼ボランティアについては、こちらからもつと情報発信する必要があります。なにかお手伝いをしたいと思っても、今は分からない状態です。

障害者本人も、障害の程度に応じて、いろいろな仕事を通じて、ふれあい、友だちをつくり、充実感を味わい、留萌のまちに役立つことをするのは励みになります。

▼ふれあいの家は昭和63年にできた施設です。通ってくる人たちは明るく、積極的になつてきました。今は無認可の施設なので、将来には社会福祉法人やNPO法人の認可をとりたいですね。

そうすると運営がもっと安定すると思う。今年は、その検討の年ですね。